

10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	
	③ ④
配架番号	3 A
	14
	35-18

SH10048B

Sick 8

(15)

M M  
一一九  
一一九  
一一八  
ブ  
ロ  
ー  
ニ  
ン  
グ  
自  
動  
小  
銃  
説  
明  
書

昭和十九年九月  
第一陸軍技術研究所

国立公文書館	
分類	
配架番号	35-18

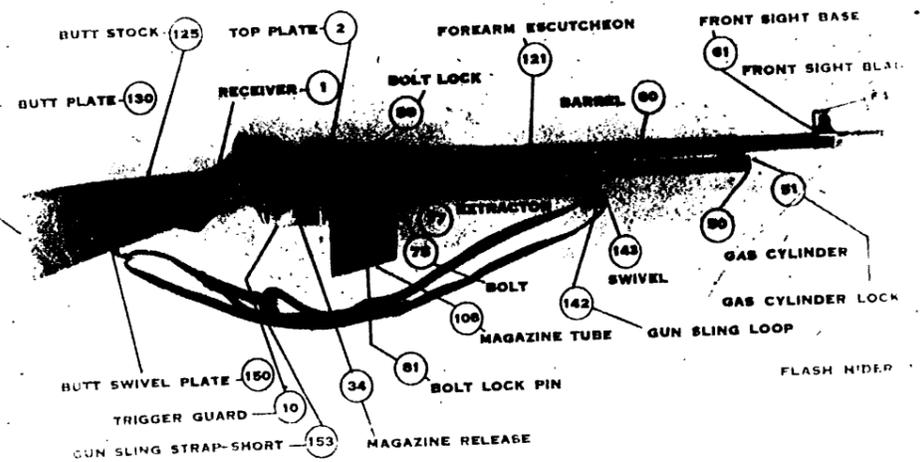


銃全備重量 七珣四七〇  
 表尺目盛 二〇〇一、六〇〇ヤード (ニツ)  
 (表尺目盛ハ九〇〇以上ハ目盛ガアリ上ガ  
 M2下ガM1ニ對スル目盛デアル)  
 發射速度 約五〇〇發分  
 (實用) 四〇一六〇發分  
 初速 約八三米/秒 (使用彈藥M2)

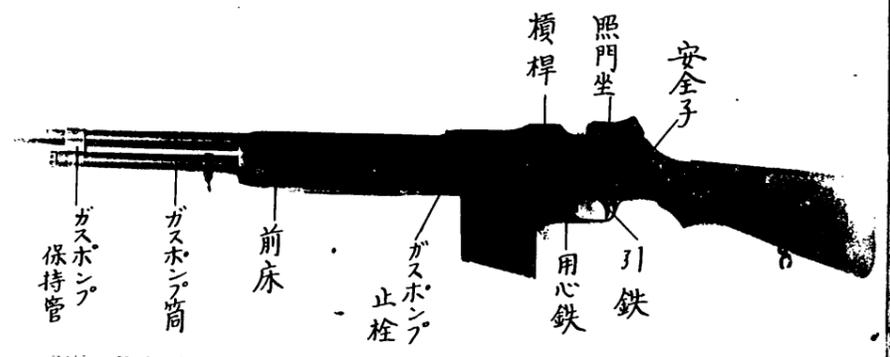
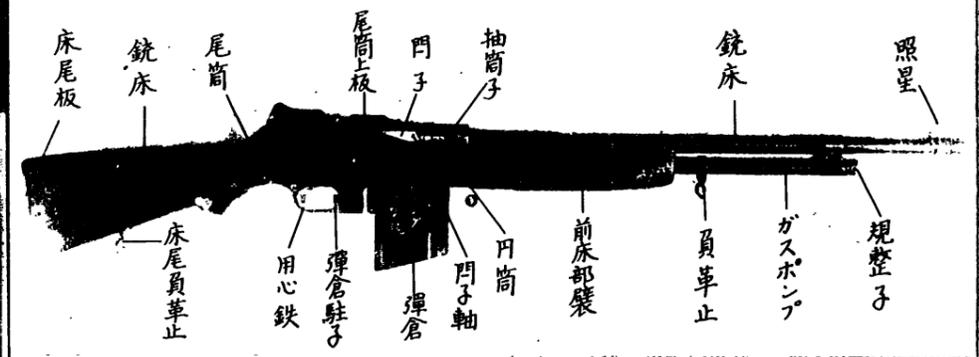
第二編 構造、機能  
 第一章 構造

第五 本銃ハ左記ノ部品カラ成ル

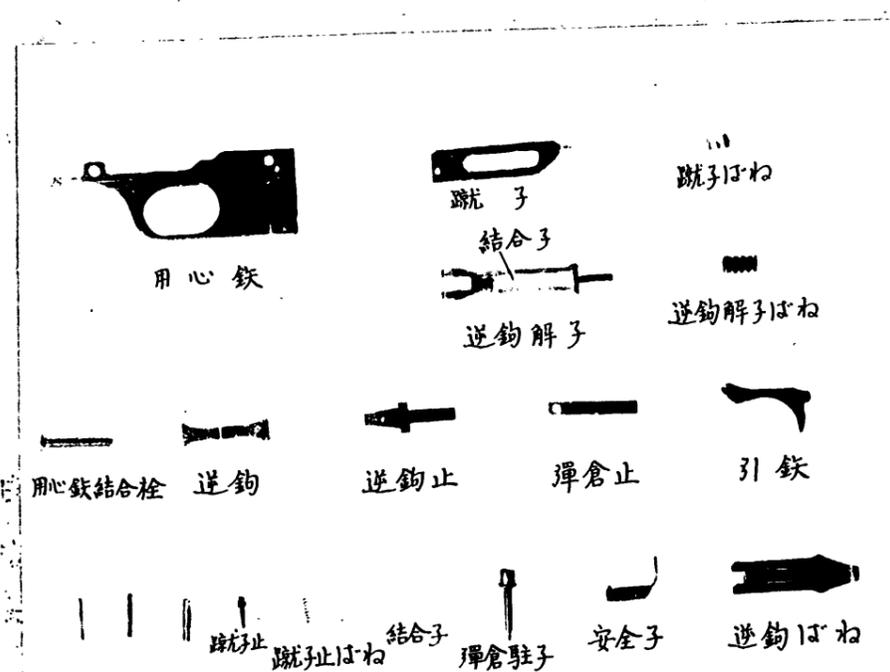
- (一) 銃身及尾筒同附屬品
  - (二) 銃尾機關
  - (三) 用心鐵及同附屬品
  - (四) 照尺
  - (五) 銃床及發筒器
  - (六) 前床
  - (七) 附屬品
- 第六 各部ノ名稱ハ第一圖、第二圖ニ示シテアルガM一九一八、M一九一九共大差無イカラM一九一九ノミヲ示シテ置ク



第二圖 M1918ブローニング自動小銃

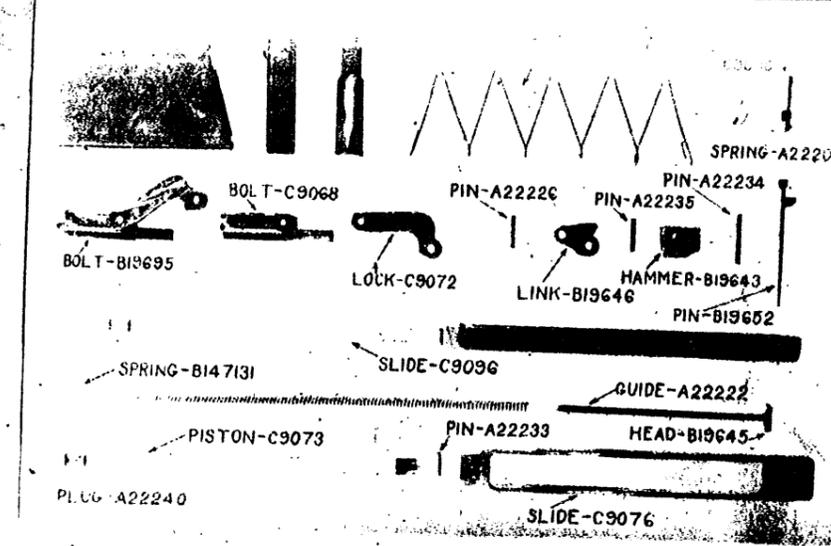


第一圖 M1919ブローニング自動小銃

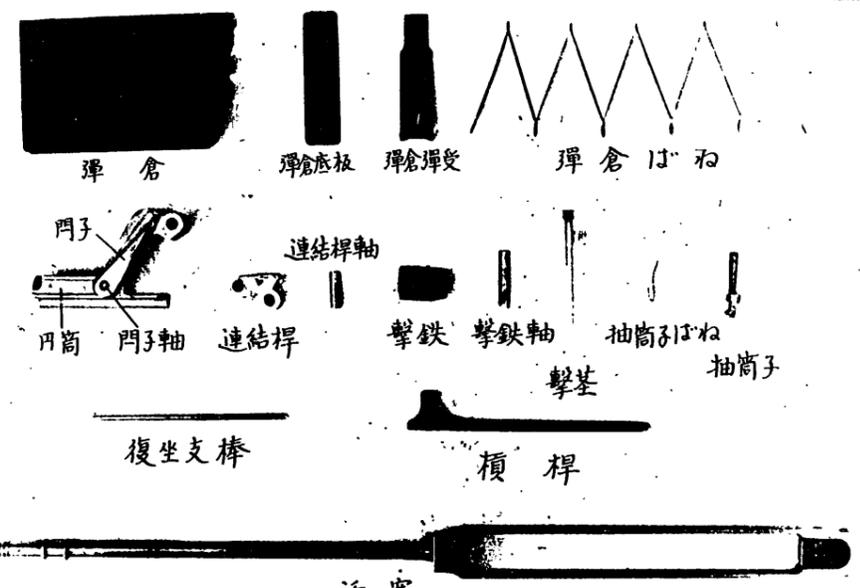


第四圖 擊發機構

註 M一九一八ハ復坐ばね及復  
M一九一八ハ復坐ばね及復  
坐ばね軸ヲ有ス  
M一九一八ハ復坐ばね及復  
様ナ復坐ばね及ばね軸ハ無  
ク緩衝器ト活塞後端ノ筒ニ  
一本ノ軸ヲ有シコレニヨリ  
緩衝器ノばねヲ復坐ばねノ  
役ヲ爲サシメルヲアル



① M1918ブローニング自動小銃



② M1919ブローニング自動小銃  
第三圖 銃尾機關部品

第七 銃尾機關及ピストン機關ノ部品ハ第三圖、第四圖ニ示ス

第八 銃ノ機能ニ就テハ多數ノ部分ガ同時ニ作用スルノデアアルガ了解

シ易イ爲ニ以下若干ノ項目ニ分ツテ説明スル

第九 銃尾機關ノ機能ハ次ノ通りデアアル(第五圖)

(2) 後坐運動

① 「ガス」ノ作用

彈藥筒ガ發火シテ彈丸ガ銃腔内ヲ前進シ「ガス」漏孔ヲ通過ス  
ルト火藥「ガス」ノ一部ハ銃身ノ「ガス」漏孔カラ「ガス」ポン  
プ」内ニ入ツテ膨脹シ活塞頭ノ前表面ニ作用シテ復坐ばねヲ壓  
縮シナガラ活塞ヲ後退ス

② 遊底ノ開退(第五圖)

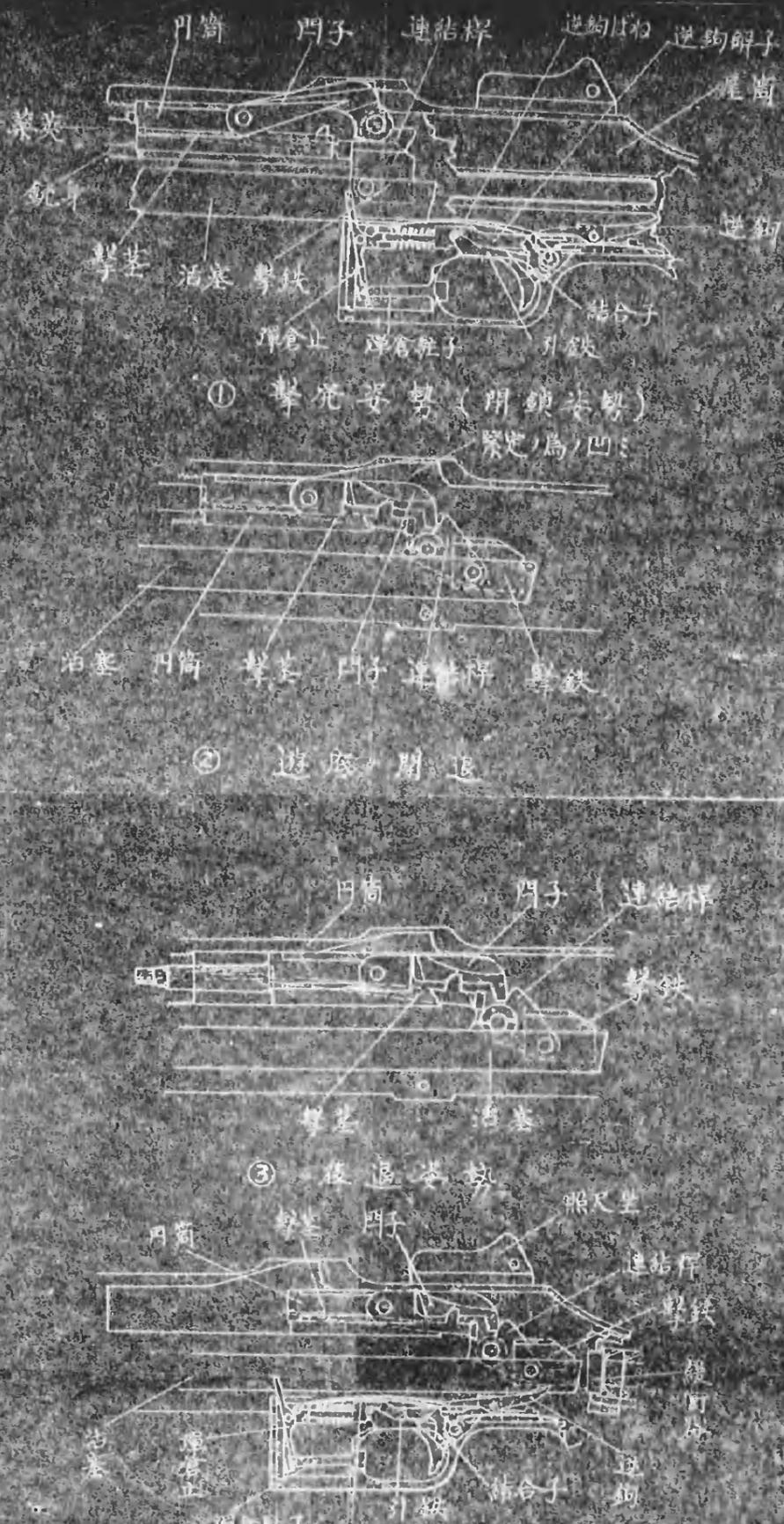
遊底ヲ開退スルニハ先ヅ槓桿ヲ後方ニ強ク引キテ活塞ヲ後退サ  
ス第一發發射以後ハ「ガス」ノ作用ヲ活塞ガ後退ス遊底ノ開退  
ガ始ルト連結桿ハ擊鐵ノ下ニ廻リ門子ヲ下へ導キ後退サセル  
門子及圓筒ノ運動ハ擊鐵ガ連結桿止下ヲ通ルトキハ始メナイ  
門子ガ尾筒ヲ緊定ノ爲ミ凹ミカラ離レテ下リ、圓筒受ケテ支へ  
ラレ連結桿ノ前ノ上肩ハ前ノ方ニ廻ツテ門子ヲ固定スルタメ  
肩ニ接ス

めくれず



第二章 機能

第八 銃ノ機能ニ就テハ多數ノ部分ガ同時ニ作用スルノデアアルガ了解  
シ易イ爲ニ以下若干ノ項目ニ分ツテ説明スル  
第九 銃尾機關ノ機能ハ次ノ通りデアアル(第五圖)



ニ作用シテ復坐ばねヲ壓

② 遊底ノ開退(第五圖②)  
 遊底ヲ開退スルニハ先ヅ撃鉄ヲ後方ニ強ク引キテ活塞ヲ後退サ  
 ス第一發發射以後ハ「ガス」ノ作用デ活塞ガ後退ス遊底ノ開退  
 ガ始ルト連結桿ハ撃鉄ノ下ニ廻リ閉子ヲ下へ導キ後退サセル  
 閉子及圓筒ノ運動ハ撃鉄ガ連結桿止ノ下ヲ通ルトキハ始メナイ  
 閉子ガ尾筒ノ緊定ノ爲ノ凹ミカラ離レテ下リ、圓筒受ケテ支へ  
 ラレ連結桿ノ前ノ上肩ハ前ノ方ニ廻ツテ閉子ヲ固定スルタメノ  
 肩ニ接ス

めくれず



③ 撃莖ノ開退

門子ノ後ノ底ノ溝ニアル「カム」ノ面ガ撃莖ノ突出部ノ同様ナル「カム」ノ面ニ接シ圓筒ノ包底面カラ撃莖ヲ下ゲテ抱ク様ニスル

④ 抽筒作用

門子ガソノ下部ノ圓形ノ「カム」面ガ圓筒受ノ後肩ニ働ク様ニ下ツタトキ圓筒ノ後退運動ガ始リコレガ藥莖ヲユルユルト弛メルトコロノ莖子作用ヲスル

⑤ 藥莖ノ包底面ニ抽筒子デシツカリト支ヘラレ後退シテクル

活塞ガソノ行程ノ終リカラ約六耗前方ノ點ニ來タトキ藥莖ノ底ガ磁子デ打タレルコレニヨリ藥莖ハ抽筒子ノ固リデカナリノ力デ廻轉セシメ尾筒ノ蹴出口カラ彈キ出ヌ

⑥ 後坐ノ終局

後坐運動ハ活塞ノ後端ガ緩衝器ニ當ツタトキ終ル若シ逆鉤ノ掛リガ押シ下ゲラレナケレバ活塞ノ刻ミ目ニ掛リ次ノ射撃ノタメニ止メラレル

(2) 復坐運動

① 復坐ばねノ作用

逆鉤ノ掛リガ下リ活塞ガ復坐ばねノ作用ニテ前進運動ヲスル約六耗前進スルト圓筒ノ裝填ノタメノ變ノ前端ガ藥莖ノ底ニ突キ當ル藥莖ハ彈倉ばねト彈受トニヨリソノ通路ニ保持サレテキル

② 裝填

彈頭ガ銃身ノ後端ニアル準ヒニ當ルトキ藥莖ハ約六耗前進シテ藥室ノ方向ニ上ル様ニソラサレル

藥莢ノ底ガ圓筒ノ包底面ヲ横ギリ抽筒子ノ下ヲ滑リ進ミ圓筒ガ閉鎖位置ニ來タトキニ抽筒子ノ頭ガ嚙ミツク藥莢ガ彈倉ヨリ出タトキニ彈ノ頭ハ藥室ニ準ヒテ藥室ニ進ミ入

③ 閉鎖

活塞ガ更ニ前進スルト門子ノ下側ノ圓味ノアル「カム」ノ表面ガ圓筒受ノ後肩ヲ乘リ越ヘ始メ門子ノ後端ハ上方ヘ入り込ム連結桿ノ連結部ハ上方ニ向フ傾向ガアリ尾筒ニアル緊定ノタメノ凹ミト反對ニナツテキル門子ハ門子軸ノ周リニ自由ニ上方ニ廻ル連結桿ハ擊鐵軸ノ周リニ上方ニ廻轉シ門子ヲ押シ上ゲ緊定スル面ハ尾筒ノ緊定スル肩ニ滑リ上リ門子ニ圓筒ヲ最后ノ位置ニ押し込ム挺子作用ヲスル門子ト尾筒ニアル二ツノ緊定サル表面ハ擊鐵軸ガ連結桿軸ノ下ヲ通ルトキニ示サレル

④ 擊發

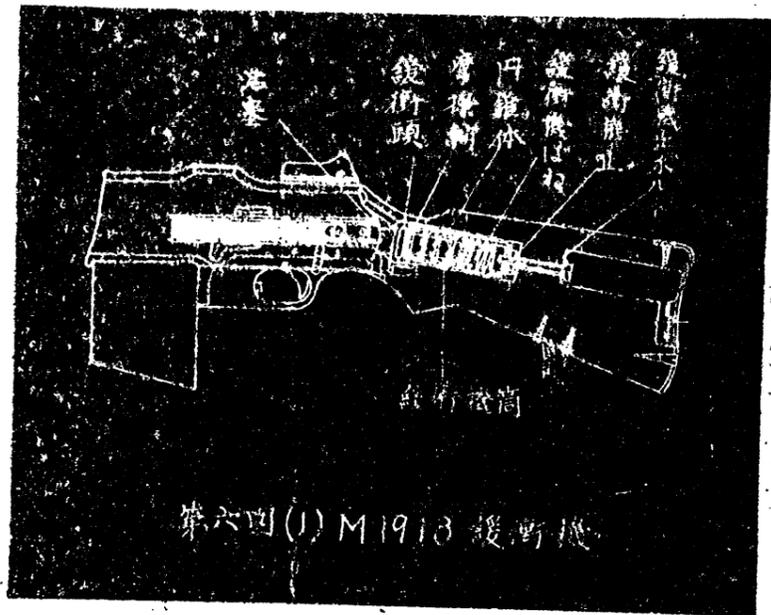
圓筒ガ閉鎖位置ニ固定サレタトキ以外ハ擊莖ノ上ハ突起ハ門子ノ下側ニ入り込ンデキルソレ故ニ擊莖ハ圓筒ノ前進後退運動ノ間ハ圓筒ノ面カラ離レテ止ツテキル擊鐵軸ガ連結桿軸ノ下ヲ通ルトキ擊莖ハ門子ニヨリ離サレル活塞ト擊鐵ハ更ニ二三耗前進シテ擊鐵ノ中央ノ鑿ガ擊莖頭ヲ擊チソレヲ前進シテ實包ヲ點火ス

⑤ 前進ノ終局

活塞ノ滑部ノ前端ガ「ガスポンプ」ノ後端ノ肩ヲ打ツテ前進運動ガ終ル

第十

(A) 本装置ハ筒ニナツテキテソノ中ニハ前カラ後ヘ次ノ順序ニ並ン

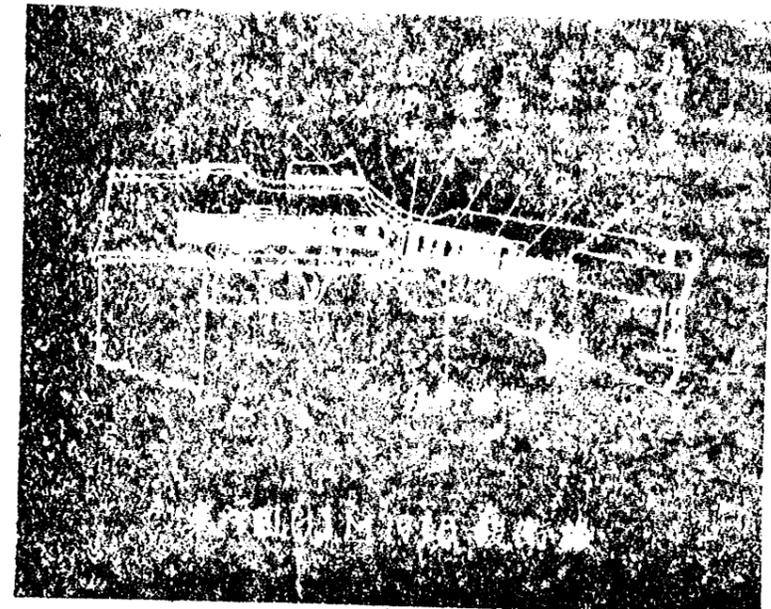


第六回(1) M1913 緩衝機

- ① 緩衝頭
- ② 摩擦輪  
膨脹ヲ許ス様ニ刻レタ  
凹ミノアル内心ヲモツ  
タ眞鍮ノ輪
- ③ 圓錐體  
摩擦輪ノ中ニ固定サレ  
タ鋼製ノ圓錐體
- ④ ⑤ ノ摩擦輪圓錐體ガ  
四組順次ニ並ンデキル
- ④ 緩衝器ばね
- ⑤ 緩衝器止  
管ノ端ニ「ネジ」込マ  
レテばねノ座ヲナツテ  
キル

(2) 緩衝頭ハ活塞ノ後端ニヨリ圓錐體ヲ被ツタ摩擦輪ヲ押シ管ニ確  
 リト擴張セシメソノ結果可成リノ摩擦ヲ生ジ摩擦輪ヲ後ニ動か  
 シ緩衝ばねヲ壓縮ス  
 カクシテ活塞ノ後退運動ハ漸次ニ止メラレ實質上既ネ返リハナ  
 イばねハ緩衝頭摩擦輪及圓錐體ヲ元ノ位置ニカヘス  
 (3) M一九一九ノ緩衝器ハソノ中ニ復坐ばねヲ有シコノばねハ復坐  
 支棒ヲ活塞ノ後端ニ連結サレテキル

(2) 緩衝頭ハ活塞ノ後端ニヨリ圓錐体ヲ被ツタ摩擦輪ヲ押シ管ニ確  
 リト擴張セシメソノ結果可成リノ摩擦ヲ生ジ摩擦輪ヲ後ニ動か  
 シ緩衝ばねヲ壓縮ス  
 カクシテ活塞ノ後退運動ハ漸次ニ止メラレ實質上跳ネ返リハナ  
 イばねハ緩衝頭摩擦輪及圓錐体ヲ元ノ位置ニカヘス  
 (3) 第一九一九ノ緩衝器ハソノ中ニ復坐ばねヲ有シコソばねハ復坐  
 支等ヲ活塞ノ後端ニ連結サレテキル



- ① 緩衝頭
- ② 摩擦輪  
 膨脹ヲ許ス様ニ刻レタ  
 凹ミノアル内心ヲモツ  
 タ真鍮ノ輪
- ③ 圓錐体  
 摩擦輪ノ中ニ固定サレ  
 タ鋼製ノ圓錐体
- ④ ⑤ノ摩擦輪圓錐体ガ  
 四組順次ニ並ンデキル
- ④ 緩衝器ばね
- ⑤ 緩衝器止  
 管ノ端ニ「ネジ」込マ  
 レテばねノ座ニナツテ  
 キル

第十一 擊發機構

(1) 連發 (A)

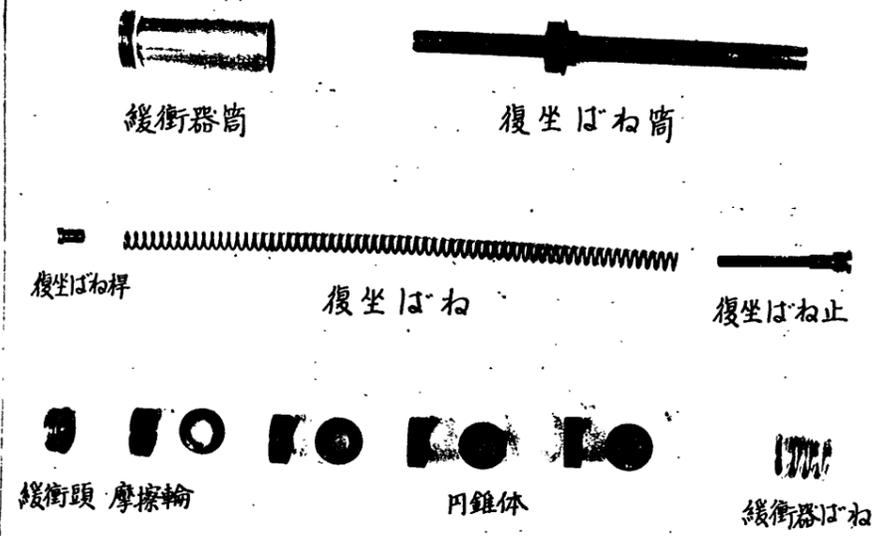
此ノ位置ニアルトキ全引鐵ヲ引イテキル間ハ逆鉤ガ下リ彈倉ガ空ニナル迄射撃ヲ續ケル

(2) 單發 (F)

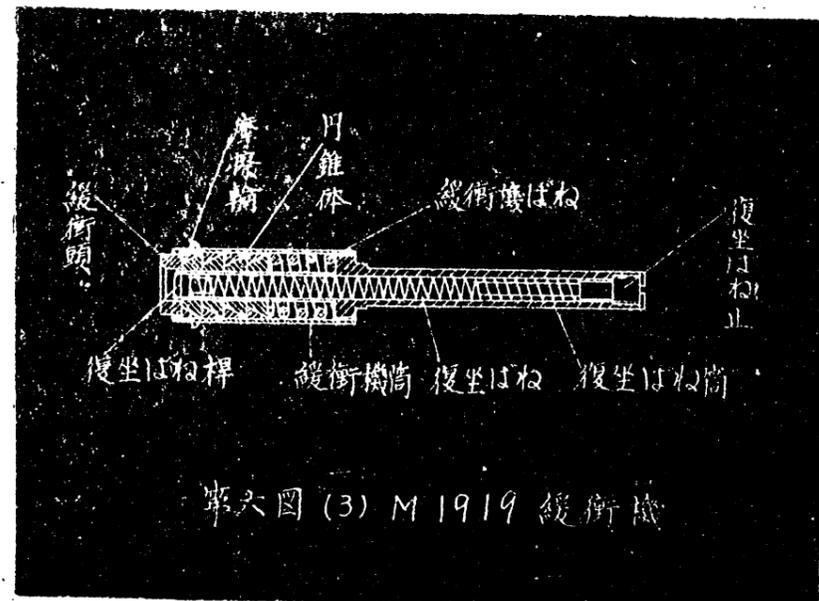
此ノ位置ニアルトキハ逆鉤ハ下ルソレガ故ニ引鐵ヲ引イタトキハ逆鉤及逆鉤ノ突起ハ解カレテキルガ活塞ガ再ビ後ニカヘルトキハ逆鉤ハ起キ逆鉤ノ突起ニ掛ル様ニナツテ居リ逆鉤ト逆鉤ノ突起ハ引鐵ヲ充分引キ放シソレカラ引ク迄ハ解カレナイ  
 コノ装置ニヨリ引鐵ヲ引キ放ス毎ニ一發ツツ發射ス

(3) 安全 (S)

コノ位置ニアルトキハ逆鉤ハ引鐵ヲ引クコトニヨツテ逆鉤ノ突起カラ放レルコトガ出來ナイ



第六圖(2) M1919 緩衝器部品



第六圖(3) M1919 緩衝機



第十一 撃發機構

(1) 連發 (A)

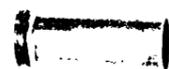
此ノ位置ニアルトキ全引鐵ヲ引イテキル間ハ逆鉤ガ下リ彈倉ガ空ニナル迄射撃ヲ續ケル

(2) 單發 (F)

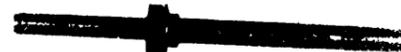
此ノ位置ニアルトキハ逆鉤ハ下ルソレガ故ニ引鐵ヲ引イタトキハ逆鉤及逆鉤ノ突起ハ解カレテキルガ活塞ガ再ビ後ニカヘルトキハ逆鉤ハ起キ逆鉤ノ突起ニ對ル様ニナツテ居リ逆鉤ト逆鉤ノ突起ハ引鐵ヲ充分引シソレカラ引ク迄ハ解カレナイ

(3) 安全 (S)

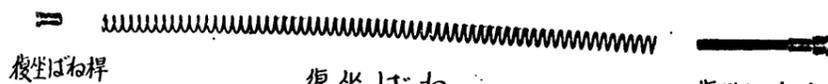
コノ位置ニアルトキハ逆鉤ハ引鐵ヲ引クコトニヨツテ逆鉤ノ突起カラ放レルコトガ出來ナイ



緩衝器筒



復坐ばね筒



復坐ばね桿

復坐ばね

復坐ばね止



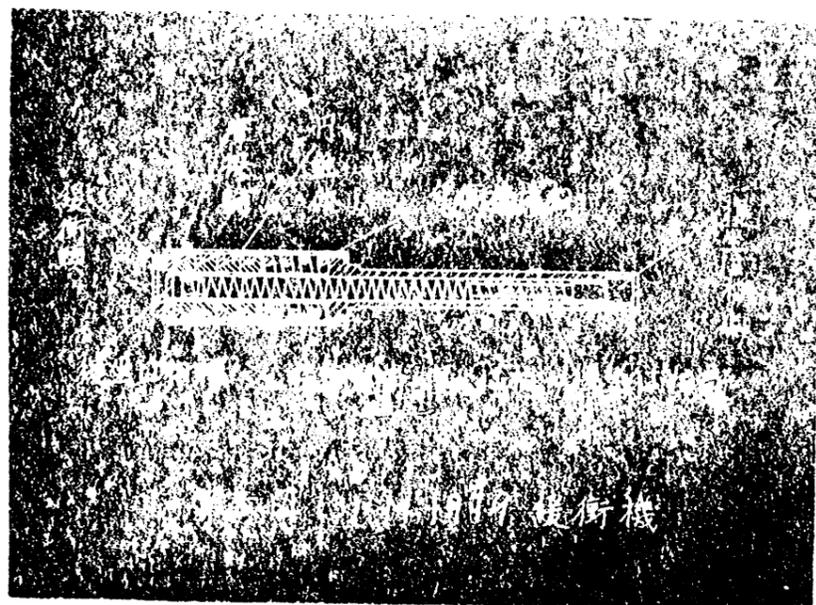
緩衝頭 摩擦輪

円錐体



緩衝器ばね

第六圖 (2) M 1919 緩衝器部品



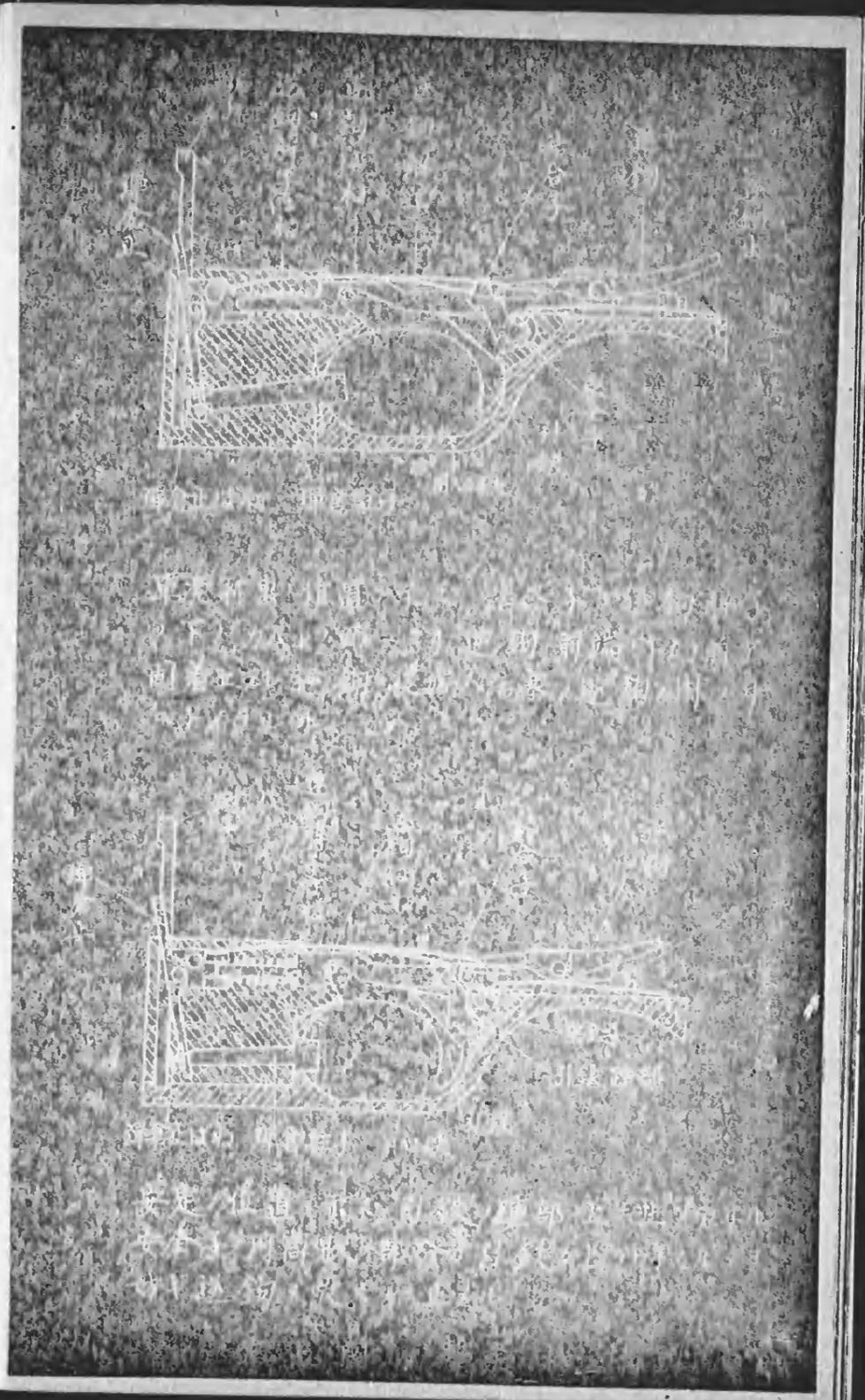
緩衝器



第十二 安全栓ノ機能

- (1) 安全栓トばねハ用心鏡ノ中ニ一語ニアル安全栓ノ爪ハ安全栓ノ上ノ縦ノ溝一ツニ入ッテキテ栓ガ一ツノ位置カラ他ノ位置ニ移ルト爪ハ他ノ溝ニ入ルばねト縦ノ溝ノ作用ハソレガ入ッテキル位置ニ安全栓ヲ保持スルノデアアル
- (2) 安全栓ヲ後ニ廻シ安全ノ位置ニスコノ位置ニ於テハ溝ガ少シク上方ニ向ヒ栓ノ變ノアル面ガ底ニナルカクシテ引鏡ヲ引ケバ引鏡ノ後端ニ縦ノ溝ガアリ溝ノ各側ノ部分ガ二ツノ肩ヲ形造リソレガ安全栓ノ底ニ乘リ上ゲルカクシテ安全栓ガ途中ニアルタメニ結合子ガ起キズ逆鉤解子ノ上ニ上ラナイソレ故逆鉤ノ突起ハ下ラナク安全ノ位置ニナル
- (3) 垂直ノ位置ニ安全栓ヲモツテ來ルトソレハ逆撥ニナルカクシテ引鏡ヲ引ケバ安全栓ノ溝ガ後ヘ廻ツテ居リ安全栓ノ變ノアル面

原本不明瞭

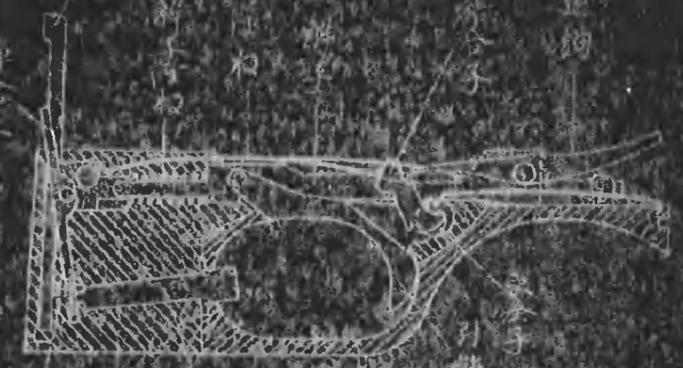


第十二 安全栓ノ機能

(1) 安全栓トばねハ用心鐵ノ中ニ一諸ニアル安全栓ノ爪ハ安全栓ノ上ノ縦ノ溝一ツニ入ッテキテ栓ガ一ツノ位置カラ他ノ位置ニ移ルト爪ハ他ノ溝ニ入ルバねト縦ノ溝ノ作用ハソレガ入ッテキル位置ニ安全栓ヲ保持スルノデアアル

(2) 安全栓ヲ後ニ廻シ安全ノ位置ニスコノ位置ニ於テハ溝ガ少シク上方ニ向ヒ栓ノ裏ノアル面ガ底ニナルカクシテ引鐵ヲ引ケバ引鐵ノ後端ニ縦ノ溝ガアリ溝ノ各側ノ部分ガ二ツノ肩ヲ形造リソレガ安全栓ノ底ニ乗り上ゲルカクシテ安全栓ガ途中ニアルタメニ結合子ガ起キズ逆鉤解子ノ上ニ上ラナイソレ故逆鉤ノ突起ハ下ラナク安全ノ位置ニナル

(3) 垂直ノ位置ニ安全栓ヲモツテ來ルトソレハ連發ニナルカクシテ引鐵ヲ引ケバ安全栓ノ溝ガ後へ廻ツテ居リ安全栓ノ裏ノアル面



ニカカル前ニ引鐵ノ二ツノ肩ハ安全栓ノ溝ニ自由ニ進ム又安全  
栓ノ溝ノ底ノ金屬ノ舌ハ引鐵ノ端ニアル縱溝ヲ通り抜ケルソレ  
ニ結合子ノ頭ガ起キ垂直ノ位置ニ保タレ前ニ倒レルコトガ出來  
ナイ即チ引鐵ヲ引クト安全栓ノ舌ガ結合子ノ爪ニ掛リ結合子ヲ  
眞直ニ保ツ斯クシテ逆鉤ノ突起ガ下リコノ位置ニ保タレル  
④結合子ハ舌ト踵ヲモツタ長靴ニ似テキル平ナ面ハ前カラ後ヘカ  
ケテ下方ヘ傾斜シテキル(逆鉤ノ傾斜)コノ後ノ傾斜ハ「カム」  
ノ作用ヲシ結合子ノ平ナ尖端ノ表面ハ逆鉤ノ前端ノ下カラ外レ  
ル迄逆鉤ノ前端ヲオコス

⑤逆鉤解子ノ横切ツテキル「ピン」ハ結合子止ト言ハレル又丁度  
結合子止ノ後方デ逆鉤解子ノ二ツノ側ヲ結ブ部分ノ上方ニ傾テ  
キル逆鉤解子ノ下側ニ注意セヨ  
此ノ面ハ結合子ノ上ノ前述ノ面デ「カム」作用ヲスル

(6)安全栓ヲ前ニヤリ單ニ位置ニスル溝ハ部分的ニ下ヘ行キ引鐵  
ヲ引イタトキ引鐵ノ後端ガ安全栓ノ溝ニ入ル

又安全栓ノ底ニアル金屬ノ舌ハ後ヘ行キ引鐵ノ端ノ溝ヲ通り抜  
ケナイソシテ安全栓ノ舌ハ結合子ノ爪ニ掛ラナイデ結合子ノ頭  
ハ前方ニ傾クコトガ出來ル

安全栓ノ頭ガ起キノレニヨツテ逆鉤ノ突起ハ下リ活塞ハ前進ス  
若シ引鐵ニ掛ル壓力ガ續ケバ前述ノ結合子ノ「カム」ノ表面ガ

逆鉤解子ノ「カム」ノ面ニ接シ結合子ノ頭ガ逆鉤ばねノ中央ノ  
葉ノ壓力ニ對シテ前ニ固着ス結合子ハ逆鉤ノ前ノ圓カラ外レ逆  
鉤ばねノ二ツノ外側ノ葉ハソレヲ押シサゲル

逆鉤ノ突起ハソレニヨリ活塞ノ通路ニ起キ上リ活塞ガ後退ス  
ルトキ逆鉤ノ突起ニ掛ルカクシテ單ニ行フ  
引鐵ガ戻サレルト逆鉤ばねノ中央ノ葉ガ結合子ノ頭ヲ逆鉤ノ前

端ノ下方ノ後へ押ス  
カクシテ引續テ再ビ引イタトキ作用ガ繰返サレ單體ヲ行フ

第三編 分解、結合

第十三 普通手入及小修理ノ際要スル程度デ兵デ分解ヲ許サレテキ  
ル範圍ノ普通分解ト一般兵ニハ禁ジラレテキル特別分解トガアル

第十四 普通分解ヲ禁ゼラレタル部分ハ次ノ通りデアル

- (1) 前 床
  - (2) 銃身及同附屬品
  - (3) 銃床及緩衝器
  - (4) 照 尺
  - (5) 尾筒及同附屬品
- 第十五 普通分解ノ出來ル部分及分解ノ順序ハ次ノ様デアアル
- (1) 銃尾機關

- ① 銃ヲ逆ニスル
- ② 「ガスポンプ」止栓ヲトル

- ③ 「ガスポンプ」前床ヲ前方ニトル
- ④ 用心鐵結合ヲトル
- ⑤ 用心鐵ヲトル
- ⑥ 復坐ばねト復坐ばね軸ヲトル(ニ九一八型ノミ)
- ⑦ 尾筒ノ擊鐵孔カラ擊鐵軸ヲ押ス
- ⑧ 横桿ヲ後ヘヌキ出ス
- ⑨ 擊鐵軸ヲトル
- ⑩ 活塞ヲ後ニ下ゲテ擊鐵ヲトル
- ⑪ ノトキ復坐支棒(一九一九型ノミ)ヲ同時ニトル
- ⑫ 活塞ヲトル
- ⑬ 圓筒受ヲ外ニ押ス
- ⑭ 圓筒、門子連結桿ヲトル
- ⑮ 擊鐵ヲトル

- ⑯ 連結桿軸ト連結桿ヲトル
- ⑰ 筒子ト筒子ばねヲトル

(2) 發機構

- ⑱ 燃子ヲトル
- ⑳ 彈倉止ばねヲトル
- ㉑ 彈倉止軸ヲトル
- ㉒ 彈倉駐子ヲトル
- ㉓ 逆鉤ばねヲトル
- ㉔ 引鐵軸ヲトル
- ㉕ 逆鉤軸ヲトル
- ㉖ 逆鉤ヲトル
- ㉗ 逆鉤解子ト逆鉤解子ばねヲトル

- ⑩ 安全栓ばねヲトル
- ⑪ 安全栓ヲトル

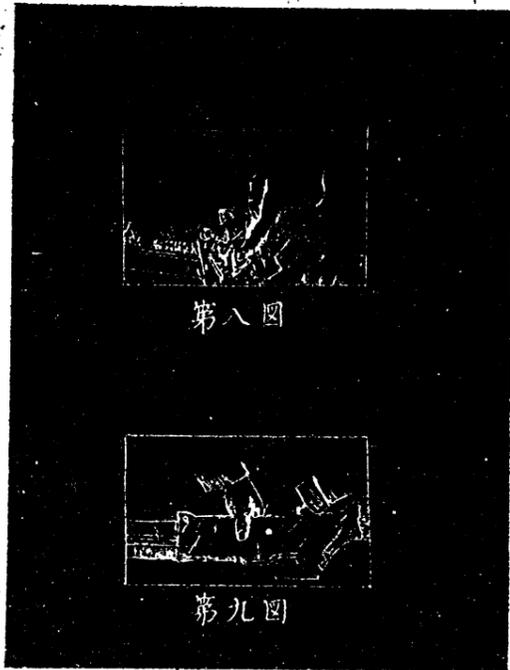
第十六 分解法ハ次ノ通りデアル

(1) 銃尾機關

- ① 「ガスポンプ」ヲ活塞ヤ保持管ヨリ分解スル爲ニ銃ヲ逆ニシテ臺ノ上ニ置ク
- ② 銃ヲ仰ヘテ横桿ヲ後ヘ引ク
- ③ 「ガスポンプ」止メ栓ヲ右ニ一八〇度廻シテ右ニ抜キ出ス
- ④ 「ガスポンプ」及前床ヲ前方ニ引キ出ス
- ⑤ 右手ノ食指ト中指トデ活塞後ノ摺動部ノ前ニ跨ラヌ様ニシテ活塞ヲ握リ右手ノ拇指デ用心鏡ヲ押シヤル様ニシテ活塞ヲ前ニヤル
- ⑥ 用心鏡結合栓ヲ右ニ九〇度廻シテ栓ヲトル

- ⑦ 用心鏡ヲ上ニ抜キ取ル

⑧ 復坐ばね軸ノ後端ノ刻ミ目ノ有ル面ヲ右手ノ食指ヲ保持スル肩部ガ開ク迄押シ復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)(第八圖)



- ⑨ 復坐ばね軸ノ後端ノ刻ミ目ノ有ル面ヲ右手ノ食指ヲ保持スル
- ⑩ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑪ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑫ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑬ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑭ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑮ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑯ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑰ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑱ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑲ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)
- ⑳ 復坐ばね軸及復坐ばねヲ取り外ス(第一九一八型)

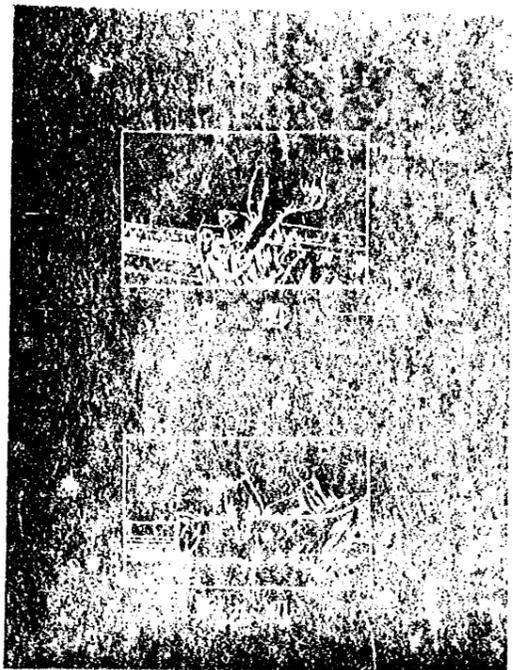
- ⑩ 安全栓ばねヲトル
- ⑪ 安全栓ヲトル

第十六 分解法ハ次ノ通りデアル

(1) 銃尾機関

- ① 「ガスポンプ」ヲ活塞ヤ保持管ヨリ分解スル爲ニ銃ヲ逆ニシテ臺ノ上ニ置ク
- ② 銃ヲ仰ヘテ槓桿ヲ後ヘ引ク
- ③ 「ガスポンプ」止メ栓ヲ右ニ一八〇度廻シテ右ニ抜キ出ス
- ④ 「ガスポンプ」及前床ヲ前方ニ引キ出ス
- ⑤ 右手ノ食指ト中指トデ活塞後ノ摺動部ノ前ニ跨ラヌ様ニシテ活塞ヲ握リ右手ノ拇指デ用心鏡ヲ押シヤル様ニシテ活塞ヲ前ニヤル
- ⑥ 用心鏡結合栓ヲ右ニ九〇度廻シテ栓ヲトル

- ⑦ 用心鏡ヲ上ニ嵌メ取ル
- ⑧ 復座ばね輪ノ後端ノ刻ミ目ノ有ル面ヲ右手ノ食指デ保持スル  
肩部ガ爾ク適時シ復座ばね輪及復座ばねヲ取り外ス(第一九一八頁)(第八四)



⑨ 左手ノ食指ヲ槓桿ヲ後方ニ押ス様ニシテ左手ヲ槓桿ヲ保チ槓桿ノ穴ニハ復坐ばね輪ノ先へ又ハ撥製彈ノ先ヲ嵌メ込ミ尾筒ノ撃發軸穴ニ一蹴スル迄持ツテ來テ左ニ押ス(第九圖)

⑩ 槓桿ヲ後ニ抜キ取ル

⑪ 撃發軸ヲ左へ抜キ出ス

⑫ 撃發ノ前端ノ下部ニ右手ノ食指ヲ置キ活塞ヲ後へヤリ撃發ヲ外ス

M一九一八九ノトキ復坐支棒ヲ同時ニ取ル

⑬ 連結桿ヲ後へ倒シ活塞ヲ尾筒ノ前方ニ押シテ取ル

⑭ 左手ノ拇指カ彈ノ先ヲ圓筒受ヲ外ニ押ス

⑮ 連結桿ヲ右手ノ拇指ト食指トデ握リ圓筒門子連結桿ヲ尾筒ノ後ニユツクリト持ツテ來テ後デ上へ抜キ出ス

⑯ 圓筒カラ撃發ヲ抜キ出ス

⑰ 連結桿軸ヲ抜キ連結桿ヲ取ル

⑱ 撥製彈ノ先ヲ抽筒子ノ爪ヲ押シ上ゲナガラ前方ニ抽筒子ヲ取ル

⑲ 抽筒子ばねヲ下ル

(2) 撃發機

① 離子止ハ撥製彈ノ先ヲ押シ上ゲル

② 彈倉止ばねガ飛ビ出サナイ様ニ拇指ヲ押ヘテ離子ヲ抜キ出ス

③ 彈倉止ばねヲ取ル

④ 彈倉止輪ヲ取リ彈倉止ヲ外シ彈倉駐子ヲ取り出ス

⑤ 用心鐵結合栓ノばねヲ結合子止ノ上ト逆鉤ばねノ下ニ差シ込ミ

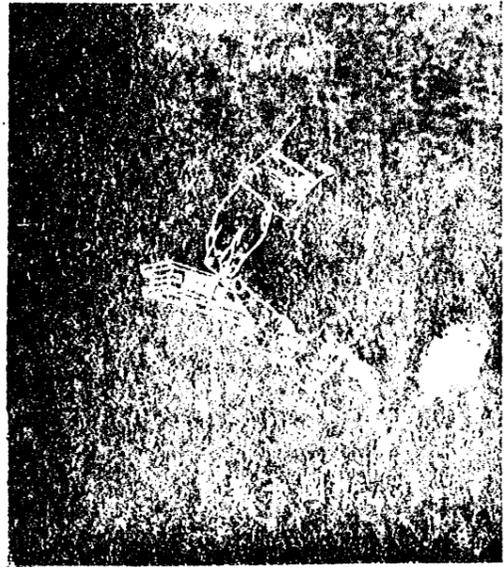
拇指ヲ逆鉤ばねヲ押ヘナガラ抉シ上ゲ後ニ取リ外ス



引鐵軸ヲ押シ出ス（第十圖）  
 此ノ引鐵軸ハ常ニ逆鉤解子ばねノ  
 張力ガ逆鉤軸ニ常ニ働イテキルカ  
 ラ逆鉤軸ヨリ前ニ取ラネバナラナ  
 イ

- ⑦ 引鐵ト結合子ヲ用心鐵ノ前ノ方カラ上へ抜キ出ス
- ⑧ 復坐ばね軸ヲ用ヒテ逆鉤軸ヲ押シ出シ逆鉤ヲ取り外ス
- ⑨ 逆鉤解子ヲ抉ジ上ゲ逆鉤解子トばねヲ取ル

- ⑩ 逆鉤ばねノ丸味ノアル端デ安全栓ヲ前カラ後へ動かス
- ⑪ 安全栓ヲ取ルトキハ逆鉤止ヲ拇指デ押ヘテ溝ノ途中デ引キ出ス
- ⑫ 前床、銃身、銃床、緩衝器、照尺、尾筒及各附屬品ハ軍隊デハ分  
 解シテハナラヌ



引鐵軸ヲ押シ出ス(第十圖)  
 此ノ引鐵軸ハ常ニ逆鉤解子ばねノ  
 張力ガ逆鉤軸ニ常ニ働イテキルカ  
 ラ逆鉤軸ヨリ前ニ取ラネバナラナ  
 イ

- ⑦ 引鐵ト結合子ヲ用心鐵ノ前ノ方カラ上へ抜キ出ス
- ⑧ 復蓋ばね軸ヲ用ヒテ逆鉤軸ヲ押シ出シ逆鉤ヲ取り外ス
- ⑨ 逆鉤解子ヲ抉ジ上ゲ逆鉤解子トばねヲ取ル

- ⑩ 逆鉤ばねノ丸味ノアル端デ安全栓ヲ前カラ後へ動かス
- ⑪ 安全栓ヲ取ルトキハ逆鉤止ヲ拇指デ押ヘテ溝ノ途中デ引キ出ス
- ⑫ 前床、銃身、銃床、緩衝器、照尺、尾筒及各附屬品ハ軍隊デハ分  
 解シテハナラヌ

第十七

結合ハ大体分解ト反対ノ順序方法ニ推ツテ行フノデアルガ

業シ易イ爲ニ時ニ必要ナコトノミヲ示ス

(1) 逆鉤逆鉤解子用心ニ逆鉤ニテ結合スルニハ復至極強固ナラ

坐支極ワ用ヒテ少シ方ヲ加ヘテ逆鉤解子取ルニ當シ逆鉤解子ヲ

ニ押ス様ニスレバ逆鉤解子ヲ容易ニ穴ニ入レルコトガ出来ル

逆鉤解子ハ解子取ルノ取力ガ常ニ弱イテキルノデ引鐵輪ノ前ニ結合

セネバナラス

(2) 逆鉤ばねノ外側ノ尖端ガ逆鉤ノ上ノ切レ目ニ確リト入り中央ノ尖

端ガ逆鉤解子ノ底ニヨツテ形造ラレタ薄ニ自由ニ乗ル様注意スル

必要ガアル

(3) 逆鉤ばねヲ結合シ移リ安全栓ヲ前ノ位置ニヤリ引鐵ヲ引イテ見テ

若シ結合子ガ起キナイトキハ間違ツテキル

若シ結合子ガ起キテモ逆鉤ヲ起サナイトキハ逆鉤ばねガ弱イノデ

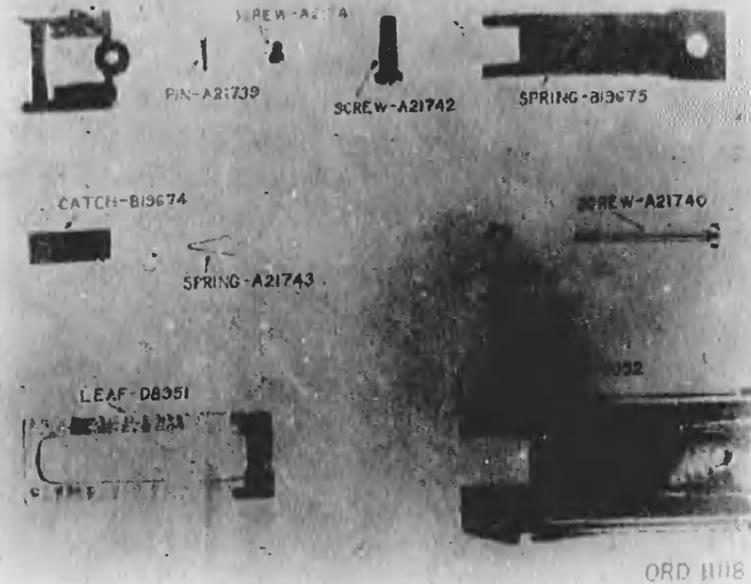


Figure 14 Sight group

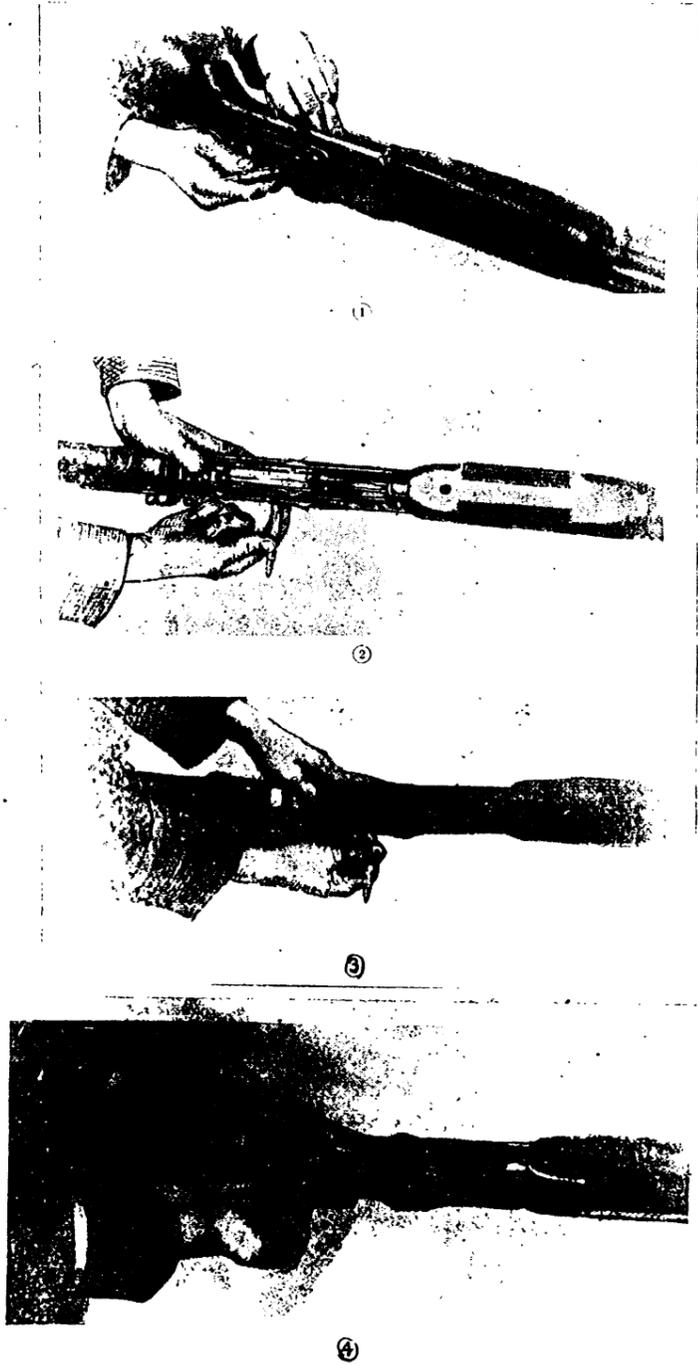
(オナー図) 照尺

アルカヲ取リ替ヘル必要ガアル  
 第十八 分隊ヲ行ハズシテ撃撃ヲ取ル法

撃撃ヲ取外スドメニ流ノ上ニオキ銃身ヲ下ニシ銃口ヲ前方ニ向ケル  
 撃撃機ヲ取外ス。機ノ起線ヲ圓筒受ノ下ニ置ク①  
 次ニ機ヲ後方ニ引キ機底ヲ後ニ止メル右手ノ拇指ト人差指トデ機  
 ヲ機リト置ル②

圓筒受ヲ引キ圓筒ヲ自由ニスルタメニ彈頭ニ少シク下方へ押ス力ヲ  
 加ヘル必要ガアル連結桿ノ上ヲ下へ押シ下ゲ門子デ圓筒ヲ後退セシ  
 ム③  
 ソレガ止ル迄「圓筒ヲ前ニヤラスソシテ撃撃ヲ替ヘル再ビ槓桿ヲ後へ  
 引キ圓筒ヲ元ノ位置ニ押シ込ム④

軸マ



第十九

(1) 除去

銃ノ分解ヲ行ハズシテ抽筒子ヲ分解、結合スル方法

銃尾機關ヲ後ニ引キ圓筒ト尾筒ノ間ニ空薬莖ヲ差シ込ミ抽筒子ヲ露出セシム

蹴出口ヲ上ニスル爲ニ銃ヲ横ニスル左手ノ人差指デ抽筒子ノ爪ヲ外ニ押シ彈ノ先デ抽筒子ノ肩ノ後ニ置キ抽筒子ガ引込ミ自由ニナル迄前ニ扶シルソシテ抽筒子ばねヲ取ル

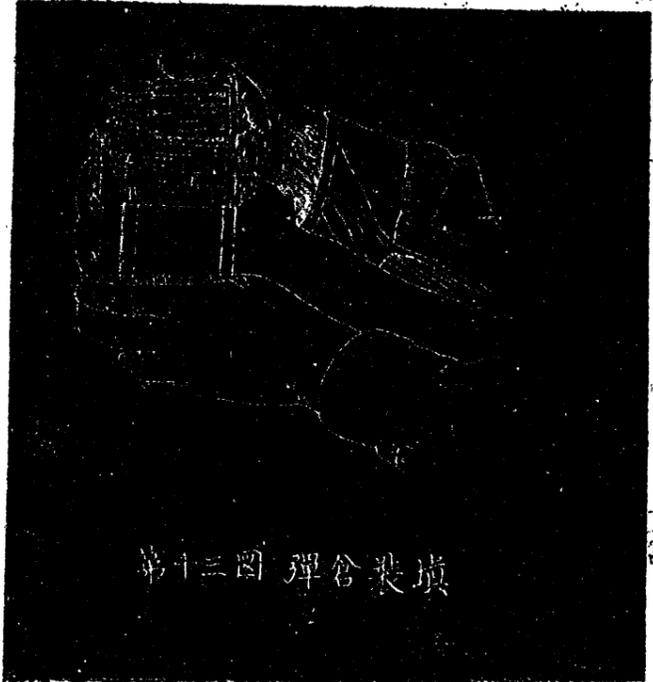
(2) 結合

抽筒子ばねノ長イ端ガ抽筒子ノ溝ニ沿フ様ニ抽筒子ばねノ短イ端ヲ抽筒子ノ腔ノ溝ニ差シ込ム  
圓筒中ニ抽筒子及扶筒子ばねヲ差シ込ムソシテ空薬莖ヲ取ル

第二十 彈倉ノ分解結合

彈倉ノ底部ヲ刻ミ目ヲ明ニナル迄上ゲ後方ニ滑ラセテ棘ヲ取ル  
彈倉蓋トばねガ外ニ出ル結合ハ逆ノ順序デ行フ

第二十一 弾倉ニ彈ヲ裝填スル法



第十三圖 弾倉裝填

(1) 弾倉環實部ヲ彈倉ニ裝

(2) 銃ニ入ツテキルトキハ

同環ノ關係位置ニナル

様左手ヲ支ヘル

(3) 弾倉環實部ニ彈子ヲ

挿シ込ミ包底面ノ近ク

ニ右手ノ拇指ヲカケ

倉ノ中ニ實包ヲ挿シ込

ム

(4) 各ノ彈倉ニハ二〇發裝填シ得ル

第二十二 銃ニ彈倉ヲ裝填スル法

彈倉蓋子ヲ押シ空彈倉ヲ抜キ出ス裝填サレタ彈倉ヲ右手ノ

底ヲ持チ實包ノ先ヲ前ニ向ケル様ニシ彈倉ヲ用心鏡ノ前ノ尾筒ノ

ノ間ニ差シ込ミ右手ヲ少シ持シ込ム

第二十三 抽 彈 法

彈倉抽子ヲ押シ彈倉ヲ外シ引鏡ヲ引イテ圓筒ヲ前進セシム

第二十四 擊 發

單發射撃デハ一發毎ニ引鏡ヲ引ク

第二十五 安全栓ノ操用

(1) 半自動即チ單發射撃ヲスルトキハ前ノ「F」ノ位置ニヤル

(2) 自動連發即チ彈倉ニ彈ガ有ル間ハ連續ニ射撃スルニハ垂直ノ

「A」ノ位置ニヤル

第四編 或 用  
第二十一 彈倉ニ弾ヲ裝填スル法



- (1) 彈倉裝填器ヲ彈倉ニ裝
- ス
- (2) 銃ニ入ツテキルトキハ
- 同様ノ關係位置ニナル
- 様左手ヲ支ヘル
- (3) 彈倉裝填器ニ彈子ヲ
- 挿シ込ミ包底面ノ近ク
- ニ右手ノ拇指ヲカケ
- 倉ノ中ニ實包ヲ挿シ込
- ム

(4) 各ノ彈倉ニハ二〇發裝填シ得ル

第二十二 銃ニ彈倉ヲ裝填スル法

彈倉底子ヲ押シ強彈倉ヲ拔キ出ス裝填サレタ彈倉ヲ右手ノ親指ノ  
底ヲ持チ實包ノ先ヲ前ニ向ケル様ニシ彈倉ヲ用心繰ノ前ノ尾指ノ  
ノ間ニ差シ込ミ右手ノ少シ指シ込ム

第二十三 前 法

彈倉抽子ヲ押シ彈倉ヲ外シ引鐵ヲ引イテ圓筒ヲ前進セシム

第二十四 後 法

單發裝填器ヲハ一發毎ニ引鐵ヲ引ク

第二十五 安全栓ノ操作

- (1) 半自動即チ單發射擊ヲスルトキハ前ノ「F」ノ位置ニヤル
- (2) (自動) 連發即チ彈倉ニ彈ガ有ル間ハ連續ニ射撃スルニハ連發ノ
- 「A」ノ位置ニヤル

(3) 安全ニスルニハ安全栓止ヲ下ゲ安全栓ガ止ニ乗リ上ゲル迄安全栓ヲ後方ニ「S」ノ位置ニスル  
第二十六 「ガス」ノ調整

(1) 銃ハ最も小サナ「ガス」漏孔デ正常ニ作用スル管デアルコノ調整  
位置ハ「ガス」ガ不足シテキルコトガハツキリシナケレバ改ヘテ  
ハサラナイ小サナ穴ヲ一直線ニスルタメニハ「ガスポンプ」筒ノ  
符號スル肩カラ約一回廻リ「ガスポンプ」頭最モ小サナ小圓ガ銃  
身ノ方ニ向フ迄分解具ヲ込メ込ムソシテ「規整子」ヲソコデ固  
スル若シ射撃シテ銃ガ「ガス」不足ナルコトガ分レバ「規整子」  
ヲ原ノ位置ノ各々ノ側ニ完全ニ一回廻シテ見ル  
固有ノ位置ヲ求メ得レバ射手ハ試験スルコトナク固有ノ位置ニ速  
ニ結合出來ル様ニソノ位置ヲ充分注意シテ置ク必要ガアル  
(2) 大キナ穴ハ汚物ヤ砂土ノ集リヤ油ノ不足ノタメニ速ニ修正不可能

ナ状態ニナリ銃ノ機能ガ不良ニナツタ場合ニ使用スルタメニ用意  
サレテアル  
コレハねじ山ガ清潔ニサレ塗油サレ規整子ガ自由ニ廻ラネバナラ  
ヌカラデア  
可能ナ場合ニハ抽筒子藥室ヲ試験シ手入シテ悪イトコロヲ直  
サネバナラヌ不利ナ條件ノトキハ「ガス」ノ不足ガ明ニオツタト  
キ規整子ハ上ニ廻轉ねじヲ戻サネバオラヌ斯クスレバ中間ノ小  
ガ「ガス」穴ヲモツタ中間ノ「ガス」漏孔ニ一直線ニナル  
コノ作用ハ銃腔ト最モ大キナ漏孔トヲ結ブタメニ續ケラレル  
(3) 過度ノ摩擦ヤ汚レハ時ニハ圓筒ノ完全ナ前進運動ヲ妨ゲル  
コノ状態ハ又過度ノ熱ノ中デ連續使用スルコトニヨリ永久歪ラ生  
ジタリ短クナツタ復坐ばねニヨリテモ生ズ  
(4) 「ガス」ノ不足シタ場合ニハ次ノ様ナ結果ニナル

① 後退不良

通常「ガス」漏孔ガ一直線ニ成ツテキナイトカ甚シク塞ツタ場合又ハ圓筒ガ非常ニ汚レタ場合ニ起ル

② 脱出不良

③ 不規則ナ遠投(異常ノ)

(5) 「ガス」ガ多過ギル場合

① 發射速度ガ速クナリ亂環ヌスル

② 「ガス」ノ作用部ガ過度ニ熱クナル

第二十七 危 害 予 防

(1) 射線上ニアルカ標ニ銃口ヲ向ケタ時以外ハ銃ニ裝填シテハナラナイ

(2) 敵ガ現レルカ又ハ假標敵ガ現レタトキ以外裝填シテハナラナイ裝填シタ銃ハ銃口ヲ上ニ向ケルカ前ニシテ携帯スル

(3) 敵ガ見エタトキ以テハ圓筒ハ常ニ前進サセテ置ク

(4) 彈倉ガ圓筒内ニ在ルトキハ何時モ裝填サレテキルト見ル

(5) 布切ヤ栓ヤ他ノ邪魔物ガ銃口ニ殘サナイ様ニスル

(6) 射撃ニ於テ銃ハ射線ヲ去ルトキハ彈ヲトル

自動小銃ハ彈倉ヲ取ルコトニヨリ照ニナルソジテ圓筒ヲ前ニヤル

第二十八 故 障 排 除

第二十八 故障及故障排除ノ方法ハ次ノ表ノ通りデアル

故障一欄表

位 置	故 障	原 因	排 除 法
第一ノ位置 (遊底及積 桿ヲ完全ニ 閉鎖スル)	1. 送彈不良  2. 擊發不良	1. 彈倉ノ不良 ① 彈倉取付不完全 ② 彈受ト彈ノ間ノ異物ノ介在 ③ 彈倉ばねノ衰損 ④ 彈倉ガ汚レテキル場合 ⑤ 彈倉体又ハ彈受ノ變形 ⑥ 彈倉止ノ衰損	1. ① 彈倉裝填口ニ押シ込ム ② 彈倉交換 ③ 彈倉交換 ④ 彈倉交換シテ手入スル ⑤ 彈倉交換 ⑥ 彈倉交換
		2. ① 擊室ノ過短折損 ② 復坐ばねノ衰損 ③ 過度ノ摩擦 ④ 彈藥筒ノ不良—雷管又ハ裝藥ノ不良	2. ① 擊室交換 ② 復坐ばね交換 ③ 摩擦部藥室ノ手入ヲ行ヒ塗油ス ④ 彈ヲ棄テル

		3. ① 規整子調整不良 ② 「ガス」漏孔ノ閉鎖	3. ① 規整子ヲ正シク調整ス ② 規整子ヲ次ノ大キチ漏孔ニシテ機會ノアルトキニ手
--	--	-----------------------------	--

<p>第一ノ位置 (遊底及積 桿ヲ完全ニ 閉鎖スル)</p>	<p>3 「ガス」壓不良</p>	<p>3. ① 規整子調整不良 ② 「ガス」漏孔ノ閉鎖 ③ 活塞ノ軋リ活塞及「ガ スポンプ」ノ汚染 ④ 藥室ノ汚染 ⑤ 塗油缺乏</p>	<p>3. ① 規整子ヲ正シク調整ス ② 規整子ヲ次ノ大キナ漏孔 ニシテ機會ノアルトキニ手 入ス ③ 同 右 ④ 規整子ヲ次ノ大キナ漏孔 ニシテ藥室ニ塗油シ機會ノ アルトキニ手入塗油ス ⑤ 藥室摩擦部ニ塗油ス</p>
<p>第二ノ位置 (完全閉鎖 ヨリ積桿ノ 活荷ガ積桿 ノナラヒノ 肩ニ乗り上 グ位置ニ遊 スル間ニ積 桿ガ緩衝軸 ヲ押ス)</p>	<p>ノ異物介在ニヨ ル機能障害 2. 不完全ナ彈藥 筒</p>	<p>ノ異物ノ介在 ① 圓筒ノ包底面上 ② 圓筒ト尾筒ガ緊定スル凹 ミノ中 ③ 門子ノ表面 ④ 門子ノ凹ミノ中 2. 彈藥筒ノ曲凸</p>	<p>ノ圓筒 包底面上尾筒、藥室 ノ中門子ノ面ヤ門子ノ凹 中ノ異物ヲ見出し其等ヲ除 去スル</p>
<p>第三ノ位置 (第二ノ位 置カラ安全 檢ノ下ノ位 置ノ眞上迄 ノ間積桿ガ 緩衝軸ヲ打 ツ)</p>	<p>ノ藥莖ノ破損 2. 送填不良 3. 遊底ガ確リト 楔止メス 4. 彈藥筒ノ凹凸</p>	<p>ノ彈頭ニ過度ノ隙間ガアル 2. ① 破損シタ彈莖ガ圓筒ノ包 底面カラノ突出 ② 藥室ノ底ガ圓筒ノ面ヲ横 ニ滑リ上ルコトヲ阻ム異 物ノ介在 3. 圓筒受ト門子トノ間ノ異物 ノ介在</p>	<p>ノ藥莖拔テ裂ケタ藥莖ヲ取り 出ス若シ故障ガ再發スル様 ナレバ藥室ヲ手入シ塗油ス 2. ① 彈室交換 ② 異物ヲ取除ク 3. 異物ノ除去</p>

<p>2. 擊發不良</p>	<p>2. ① 彈室ノ過短折損 ② 復坐ばねノ衰損 ③ 過度ノ摩擦 ④ 彈藥筒ノ不良ニ當管又ハ 裝藥ノ不良</p>	<p>2. ① 彈室交換 ② 復坐ばね交換 ③ 摩擦部藥室ノ手入ヲ行ヒ 塗油ス ④ 彈ヲ棄テル</p>
----------------	---	---

昭16.5.26 松本光郎

本論文ハ「軍事思想」誌1941年第1號所載砲兵少將「ク  
ラスノベフツエヲ」ノ述作ナリ

目次

諸論

攻撃準備期ニ於ケル協同動作

準備砲撃期ニ於ケル協同動作

攻(突)撃及縦深内戦闘展開期ニ於ケル協同動作

(5) 廣漠地帯ニ於ケル攻撃行動ノ測地的準備

昭16.8.9 小澤正雄譯

「ベ・ガラコ」 「軍事彙報」1939年第10號

ノ抽筒不良

ノ①薬室ノ汚染發錆凹痕

②抽筒子ノ下ノ汚レ

③不良抽筒子

ノ掃除棒デ空薬莖ヲ取除ク

①薬室ノ手入塗油

②圓筒包底面、抽筒子ノ手

③抽筒子交換

昭  
本論文ハ「軍事思想」誌  
ラスノベフツエツ」ノ述  
目次  
諸論  
攻撃準備期ニ於ケル協  
準備砲撃期ニ於ケル協  
攻(突)撃及縦深内戦  
(5) 廣漠地帯ニ於ケル攻撃  
「ベ・ガラコ」「軍事

<p>3. 阻碍</p>	<p>2. 引鐵ガ活塞ヲ 離サズ圓筒ヲ 固定ス</p>	<p>ノ抽筒不良</p>	<p>第四ノ位置 (第三ノ位 置ト完全ニ 後退シタ位 置トノ間デ 榎桿ガ擊鐵 軸ヲ打ツ)</p>
<p>3. 抽筒子ト圓筒ノ間ノ異物介在</p>	<p>2. 逆鉤はねノ不良 ④ 結合子ノ不良又ハ脱落 ③ 逆鉤はねノ不良</p>	<p>1. ① 藥室ノ汚染或錆跡 ② 抽筒子ノ下ノ汚レ ③ 不良抽筒子 ④ 不良抽筒子ばね ⑤ 不良彈藥筒一軟質ノ藥莖起緣部</p>	
<p>3. 異物除去</p>	<p>2. ① 安全栓ヲF又ハAニスル ② 用心鐵ヲ取外シテ調ベル 必要ノ部分ヲ元ノ位置ニ カヘシ正シク結合ス</p>	<p>1. 掃除棒デ空藥莖ヲ取除ク ① 藥室ノ手入塗油 ② 圓筒包底面、抽筒子ノ手入 ③ 抽筒子交換 ④ 抽筒子ばね交換</p>	

第五編 彈藥

第二十九 M一九一八及M一九一九「ブローニング」自動小銃ニ用ヒ

ラレル彈藥ヲ使用上ヨリ分類スレバ次ノ通りデアル

⊃ 普通實包 人員及輕材料ノ目標ニ對シ使用スル

⊂ 良光實包 射線ノ測定及ビ燒夷目的ニ使用スル

⊂ 微甲實包 彈頭ヨリ短時ノ間ヲ赤色ニ塗裝シテアル

⊂ 裝甲車輛、ベトン製掩蓋物及同種類ノ射撃目標ニ對

株式會社神戸製鋼所  
門司工場及長府工場

第五編 彈藥

第二十九 M一九一八及M一九一九「ブローニング」自動小銃ニ用ヒ

ラレル彈藥ヲ使用上ヨリ分類スレバ次ノ通りデアル

(一) 普通實包 人員及輕材料ノ目標ニ對シ使用スル

(二) 曳光實包 射線ノ觀測及ビ誘導目的ニ使用スル

(三) 徹甲實包 彈頭ヨリ短時ノ間ヲ赤色ニ塗裝シテアル

裝甲車輛、ペトシ製掩蓋物及同種類ノ射彈目標ニ對シ使用スル

彈頭ヨリ短時ノ間ヲ黑色ニ塗裝シテアル

訓練用ニ用ヒル

四 擧製 彈

第三十 彈藥包裝箱ノ兩端及兩側ニ塗ツタ色帶ニ依ル各種實包ノ色別

ハ次ノ通りデアル

(一) 普通實包 赤

(二) 曳光實包 黄ノ上ニ綠

株式會社神戸製鋼所  
門司工場及長府工場

白徹甲實包 黄ノ上ニ青

四撥製 彈 線

第三十一 使用彈藥ノ型式及各々ノ最大射程ハ次ノ通りデアル

- (一) M 2 七六ニ耗普通實包 ..... 三四五〇「ヤード」(約三一五五米)
- (二) M 1 七六ニ耗普通實包 ..... 三五〇〇「ヤード」(約五〇三〇米)
- (三) M 1 七六ニ耗徹甲實包 ..... 四〇〇〇「ヤード」(約三六五八米)
- (四) M 2 七六ニ耗徹甲實包 ..... 四五〇〇「ヤード」(約四一一五米)
- (五) M 1 七六ニ耗徹甲實包 ..... 四四〇〇「ヤード」(約四〇二三米)
- (六) M 1 或ハ M 1 921 七六ニ耗撥製彈 ..... 三四五〇「ヤード」(約三一五五米)

M 一九一八  
M 一九一九  
ブローニング自動小銃説明書 終

